

消費者動向調査（令和4年7月調査）

食の志向等に関する調査結果

- 1 食に関する志向
- 2 国産品かどうかを気にかけるか
- 3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度
- 4 食品の値上げに対する意識
- 5 環境に配慮した農産物・食品について

調査要領

| | |
|------|---|
| 調査時期 | 令和4年7月 |
| 調査方法 | インターネット調査 全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人） ※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。 |

<調査に関するお問い合わせ>
日本政策金融公庫 農林水産事業
情報企画部 TEL 03-3270-5585

詳しい調査結果は、当公庫ホームページ（<https://www.jfc.go.jp/>）に掲載しています。
トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業」→「消費者動向等調査」
の順でご覧いただくか、右の2次元コードでもアクセス可能です。
（通信料はお客様のご負担となります）



注：図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

令和4年10月



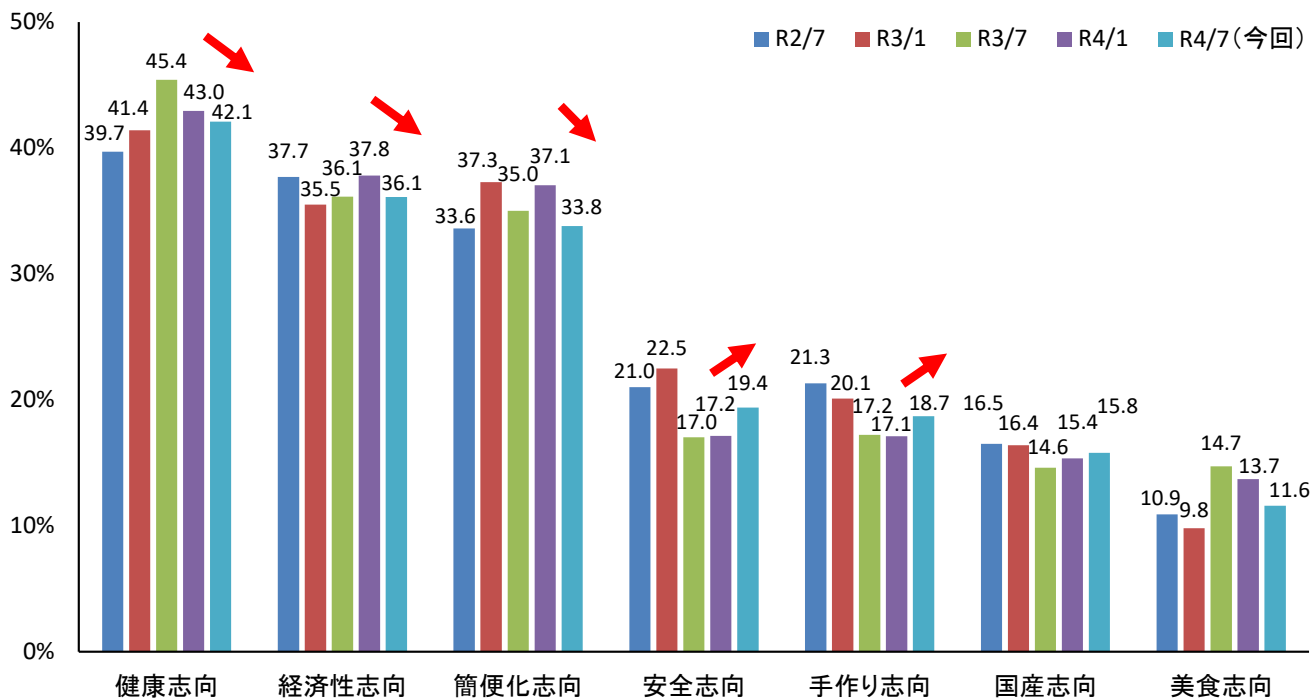
日本政策金融公庫

農林水産事業

1 食に関する志向

図1 食に関する志向の推移(上位2つ回答)

- ・ 食に関する志向は、前回までの調査と同じく「健康志向」「経済性志向」「簡便化志向」が3大志向となった。
- ・ 「健康志向」(42.1%、前回比▲0.9ポイント)は2半期連続で低下したほか、「経済性志向」(36.1%、前回比▲1.7ポイント)、「簡便化志向」(33.8%、前回比▲3.3ポイント)もそれぞれ低下した。
- ・ 3大志向以外では「安全志向」(19.4%、前回比+2.2ポイント)、「手作り志向」(18.7%、前回比+1.6ポイント)が上昇した。



※その他、食に関する志向として「地元産志向」「ダイエット志向」「外食志向」「高級志向」があります。

図2 食に関する志向(3大志向、平成20年1月調査からの推移)

- ・ 「簡便化志向」は今回調査では33.8%(前回比▲3.3ポイント)となり低下したが、長期的にみると、右肩上がりに推移してきている。

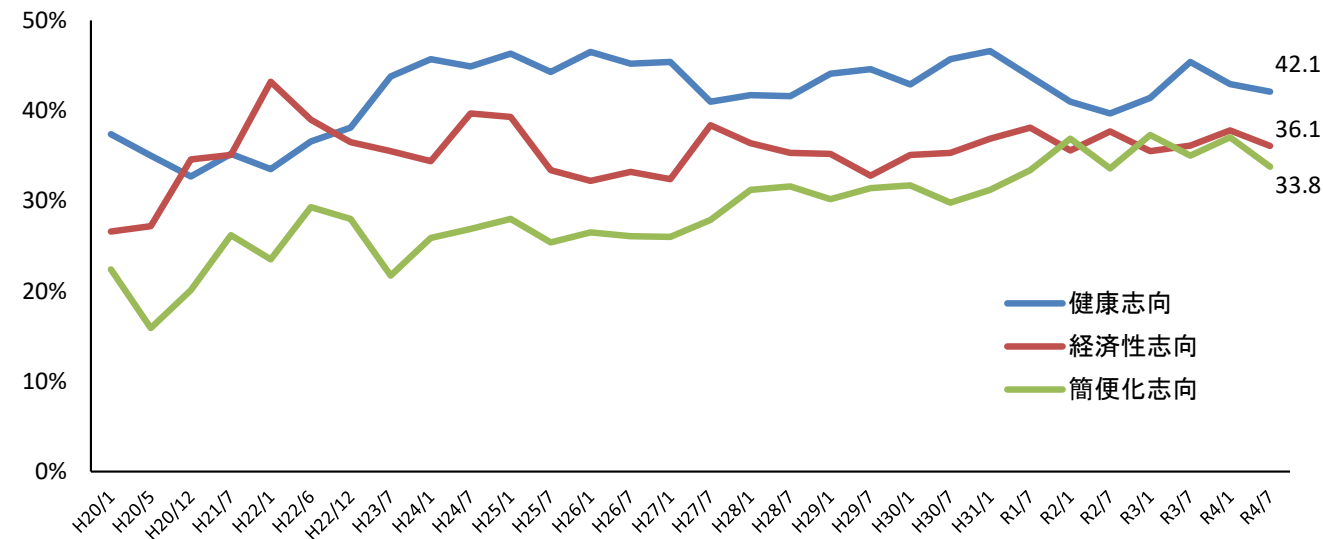
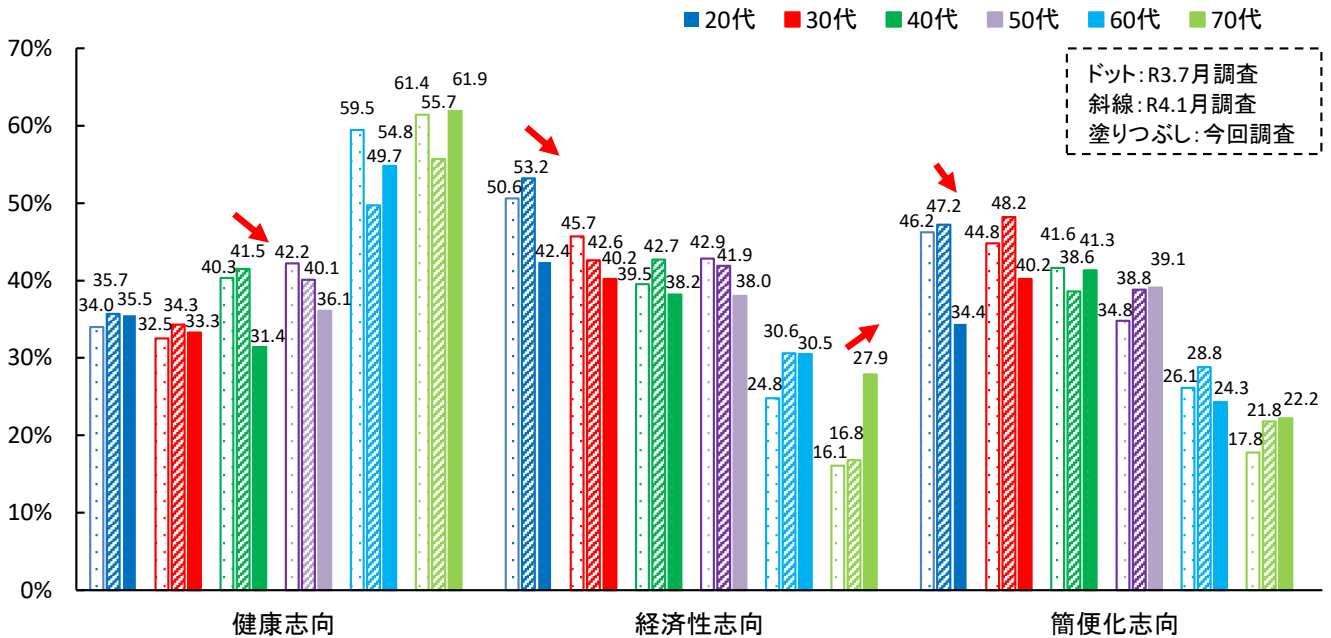


図3 年代別 食に関する志向(3大志向)

- ・「健康志向」は、40代(31.4%、前回比▲10.1ポイント)が低下した。
- ・「経済性志向」は70代(27.9%、前回比+11.1ポイント)が上昇した一方、20代(42.4%、前回比▲10.8ポイント)は低下した。
- ・「簡便化志向」は20代(34.4%、前回比▲12.8ポイント)が低下した。



2 国産品かどうかを気にかけるか

図4 食料品を購入するときに国産品かどうかを気にかけるか(継年データ、年代別)

- ・食料品を購入するときに国産品かどうかを「気にかける」割合(67.6%、前回比▲2.3ポイント)は低下した。
- ・年代別にみると、「気にかける」は年代が高くなるほど割合が高い傾向。

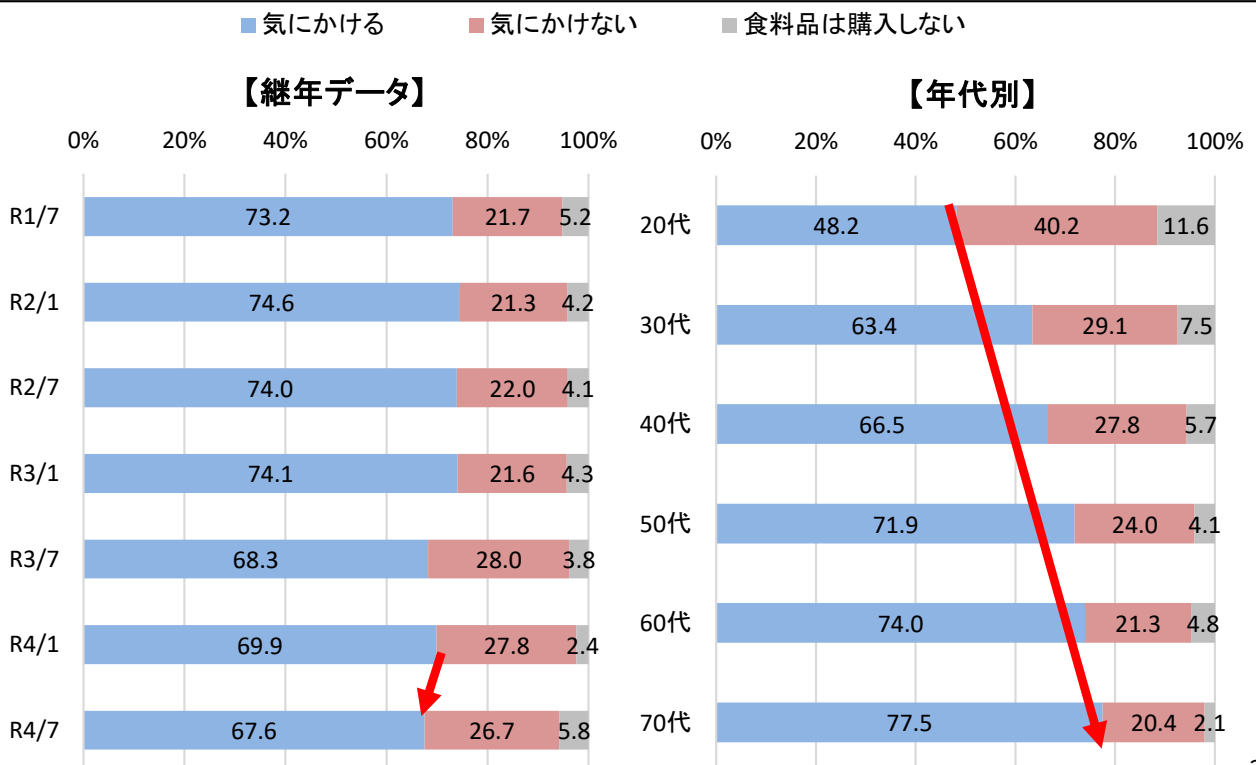
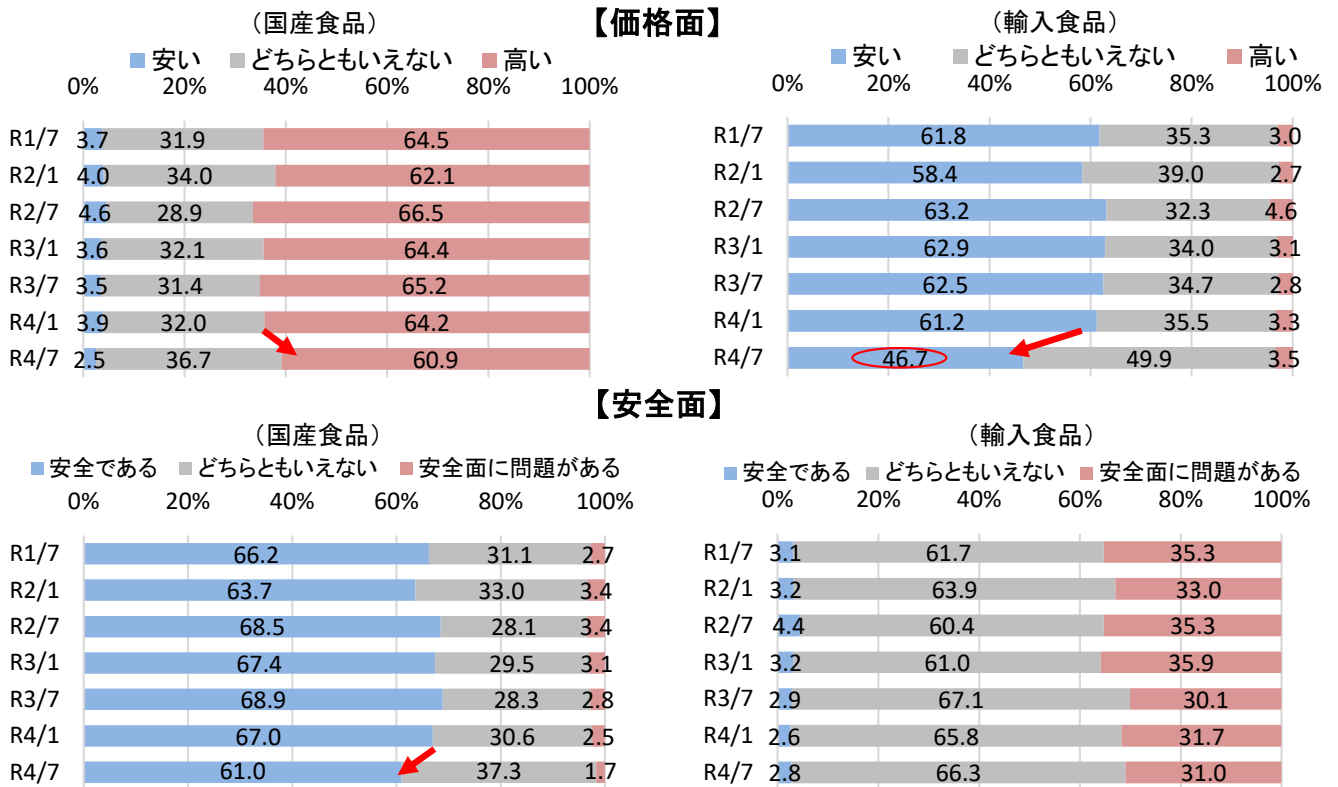


図5 国産食品、輸入食品に対するイメージ(価格面、安全面)

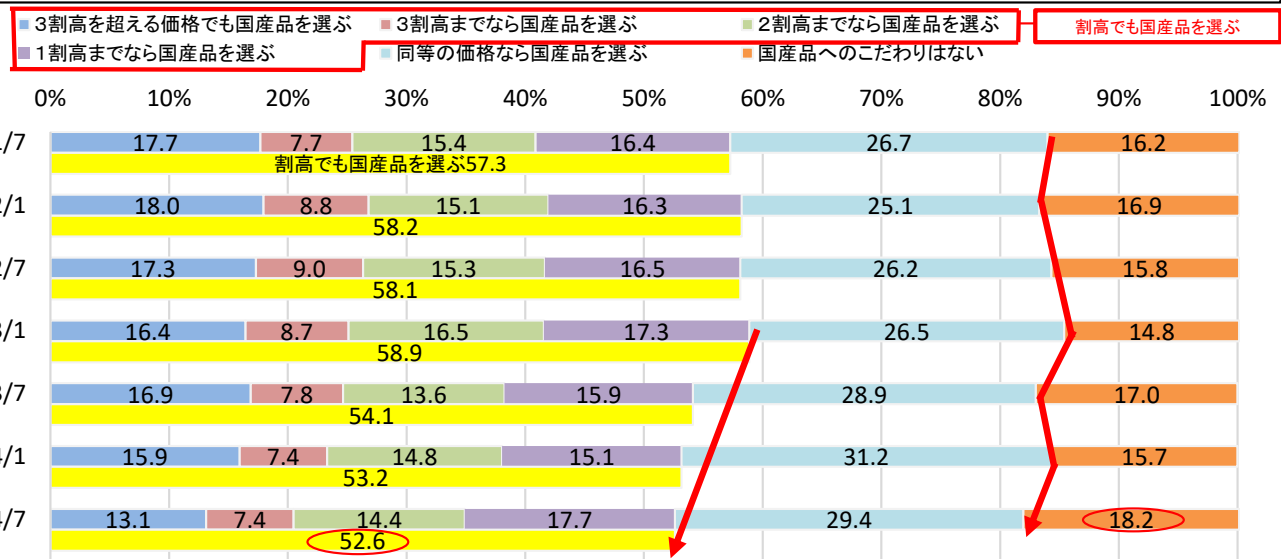
- ・国産食品に対するイメージについて、価格が「高い」の割合(60.9%、前回比▲3.3ポイント)及び「安全である」の割合(61.0%、前回比▲6.0ポイント)は低下した。
- ・輸入食品に対するイメージについて、価格面は「安い」の割合(46.7%、前回比▲14.5ポイント)が、調査開始以来初めて「どちらともいえない」の割合(49.9%、前回比+14.4ポイント)を下回った。安全面については、「安全面に問題がある」の割合(31.0%、前回比▲0.7ポイント)は横ばいに推移した。



3 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

図6 国産食品の輸入食品に対する価格許容度の推移

- ・「割高でも国産品を選ぶ」とする割合(52.6%、前回比▲0.6ポイント)は、過半を維持するも、3半期連続で低下した。
- ・「同等の価格なら国産品を選ぶ」(29.4%、前回比▲1.8ポイント)は低下、「国産品へのこだわりはない」(18.2%、前回比+2.5ポイント)は上昇した。



4 食品の値上げに対する意識

図7 最近1か月以内に購入した生鮮・加工食品のうち昨年の同時期と比較して値上げを感じる品目

- 最近1か月に購入した生鮮・加工食品のうち、昨年の同時期と比較して値上げを感じる品目は、「パン」(68.5%)、「野菜」(65.5%)、「小麦粉」(61.8%)、「食用油」(61.2%)で6割を上回った。

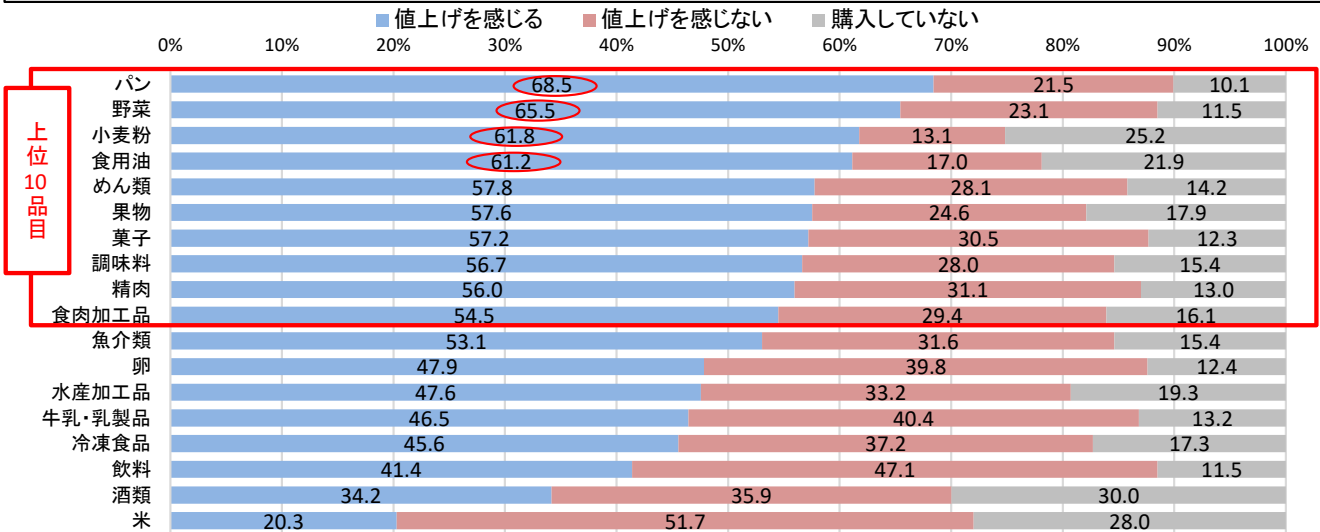


図8 値上げを感じる生鮮・加工食品(上位10品目)を購入する際の消費行動の変化

- 値上げを感じる生鮮・加工食品(上位10品目)を購入する際の消費行動の変化について、「今まで通り購入」は、野菜(46.6%)、パン(43.4%)、調味料(42.2%)の順で高くなった。他方、「購入量を減らす」は菓子(35.1%)、果物(32.1%)で3割を上回った。

【各品目について、「値上げを感じる」と回答した方】

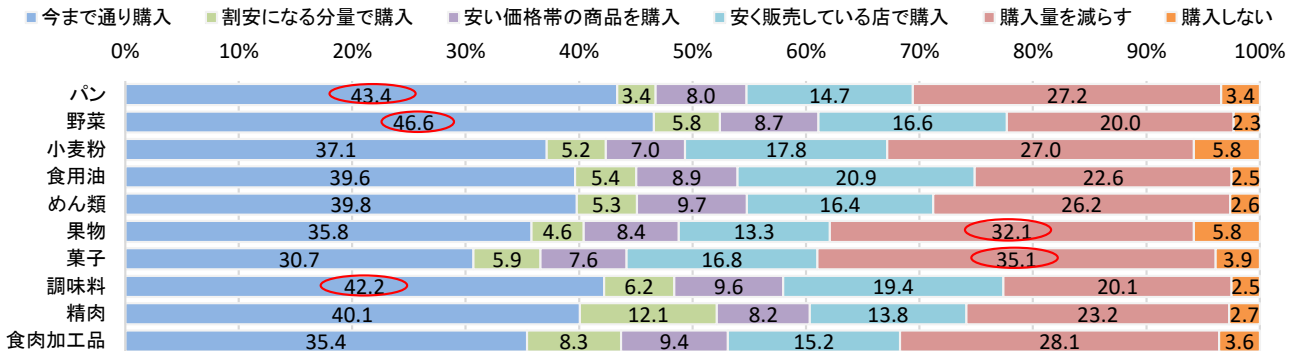
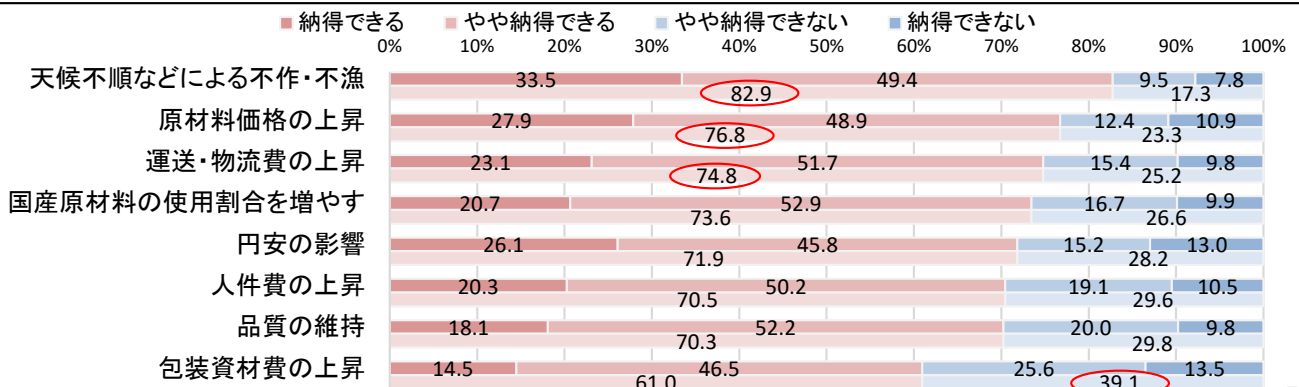


図9 食品の値上げ要因に対する納得感

- 食品の値上げ要因に対するそれぞれの納得感について、「納得できる」「やや納得できる」を合わせた回答は「天候不順などによる不作・不漁」(82.9%)が最も高く、次いで「原材料価格の上昇」(76.8%)、「運送・物流費の上昇」(74.8%)の順となった。一方で「納得できない」「やや納得できない」を合わせた回答は、「包装資材費の上昇」(39.1%)で3割を上回った。



5 環境に配慮した農産物・食品※について

※本調査における「環境に配慮した農産物・食品」とは、農薬や化学肥料の使用を控えて生産された農産物や有機栽培で生産された農産物、過剰包装ではなくごみが少ない・輸送距離が短い商品など、環境への負荷をなるべく低減した農産物・食品を指します。

図10 農産物購入時、農薬や化学肥料の使用を控えて栽培された農産物かどうかを気にかけるか

- ・ 農産物購入時、農薬や化学肥料の使用を控えて栽培された農産物かどうかを「いつも気にかけている」(6.6%)、「ある程度、気にかけている」(30.8%)を合わせた“気にかけている”とする回答は37.4%となった。
- ・ 年代別では、“気にかけている”とする回答が60代は44.0%、70代は59.4%となった。

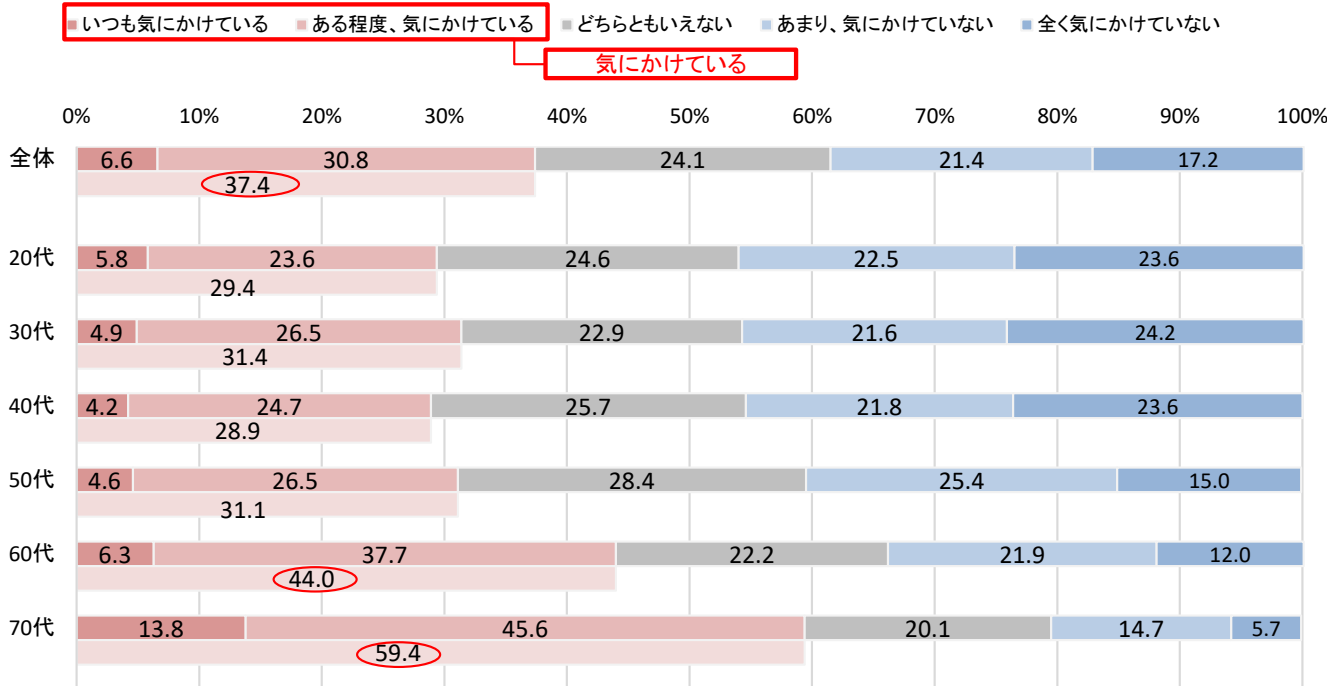


図11 農薬や化学肥料の使用を控えて栽培された農産物かどうかを気にかける理由

- ・ 農産物購入時、農薬や化学肥料の使用を控えて栽培された農産物かどうかを“気にかけている”と回答した方に、その理由について聞いたところ、「そう思う」と回答した方の割合は「食べる人の健康に配慮しているから」(70.7%)、「生産者の思いや考えに共感しているから」(48.5%)、「動植物の生態系への影響が少ないから」(44.8%)の順となった。

【「いつも気にかけている」「ある程度、気にかけている」と回答した方】

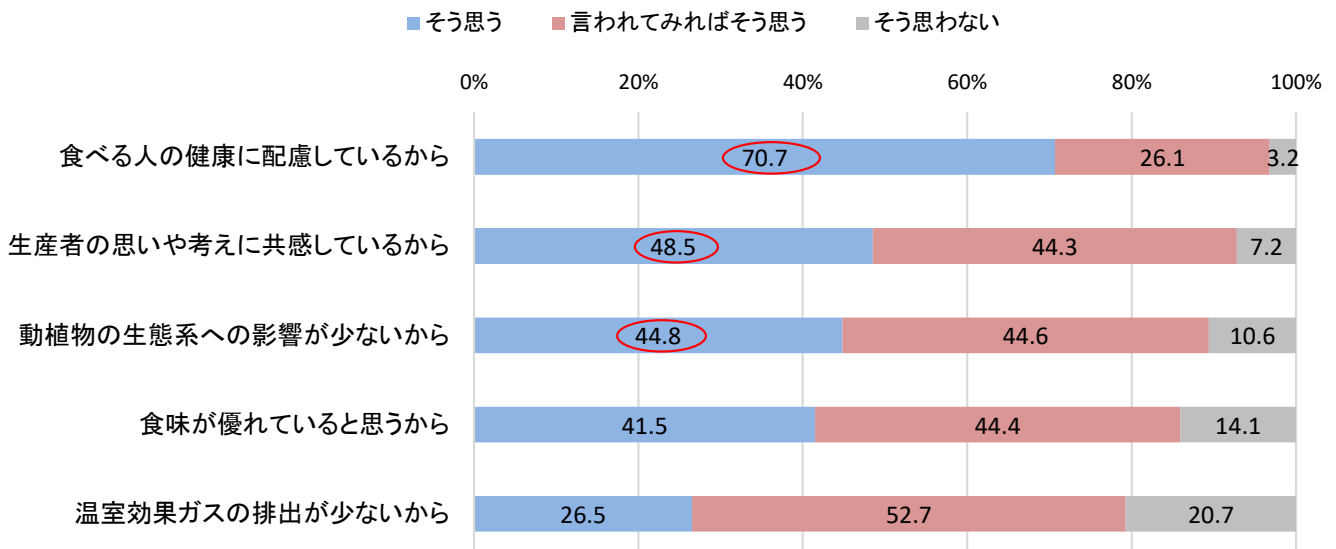


図12 加工食品購入時、環境に配慮した加工食品かどうかを気にかけるか

- ・加工食品購入時、環境に配慮した加工食品かどうかを“気にかけている”とする回答は25.7%となった。
- ・年代別では、“気にかけている”とする回答が70代(41.7%)で他の年代と比べて特に高くなった。

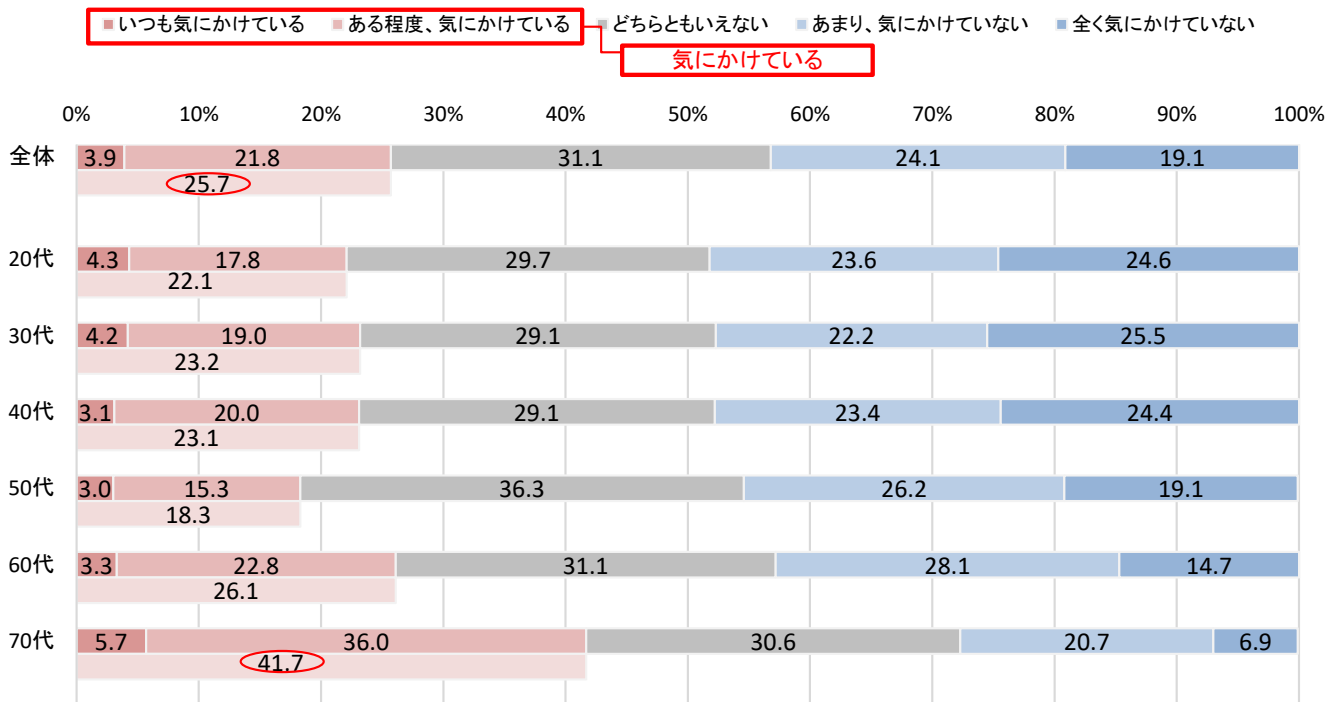


図13 環境に配慮した加工食品かどうかを気にかける理由

- ・加工食品購入時、環境に配慮している加工食品かどうかを“気にかけている”と回答した方に、その理由について聞いたところ、「食品ロスの削減に貢献しているから」、「環境に配慮した原料を使用しているから」という理由で「そう思う」と回答した方の割合が5割を上回った。

【「いつも気にかけている」「ある程度、気にかけている」と回答した方】

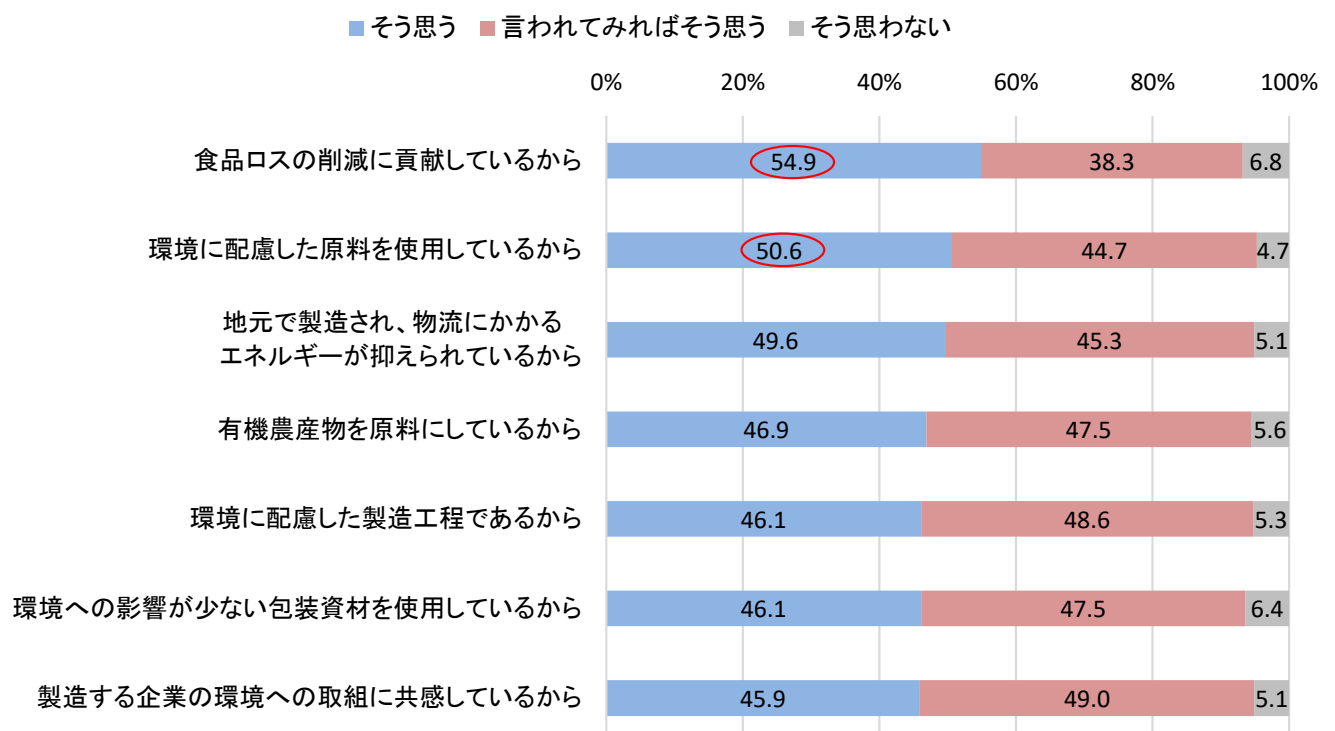


図14 環境に配慮した農産物・食品の購入についての考え

- ・ 環境に配慮した農産物・食品の購入についての考えは、「一般の商品と同等の価格なら購入したい」(50.3%)が最も高くなった。
- ・ 60～70代は「時々であれば少し割高でも購入したい」が4割を上回った。
- ・ 20代は「価格を気にせず購入したい」(7.2%)が他の年代よりも高い回答割合となった。

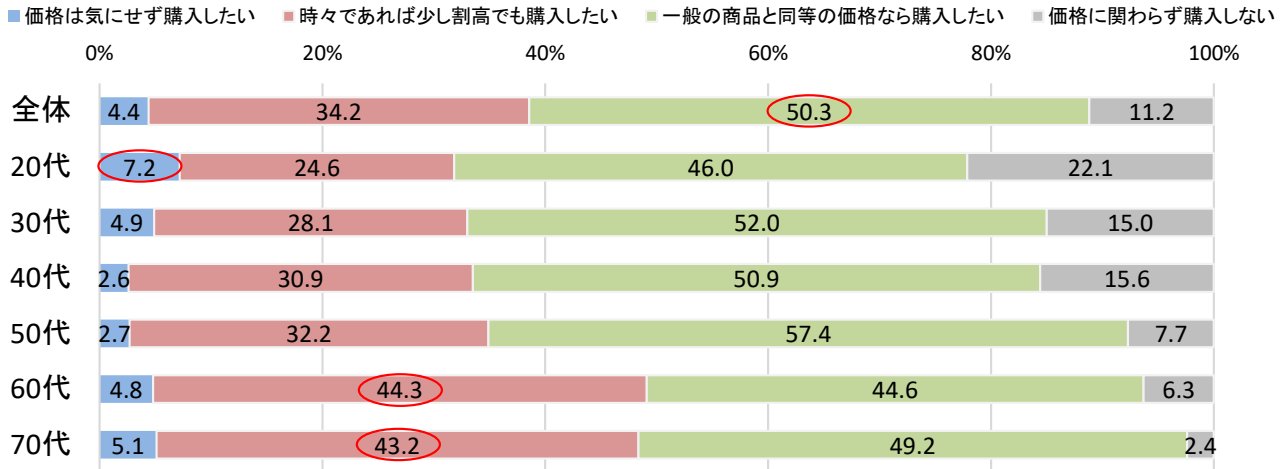
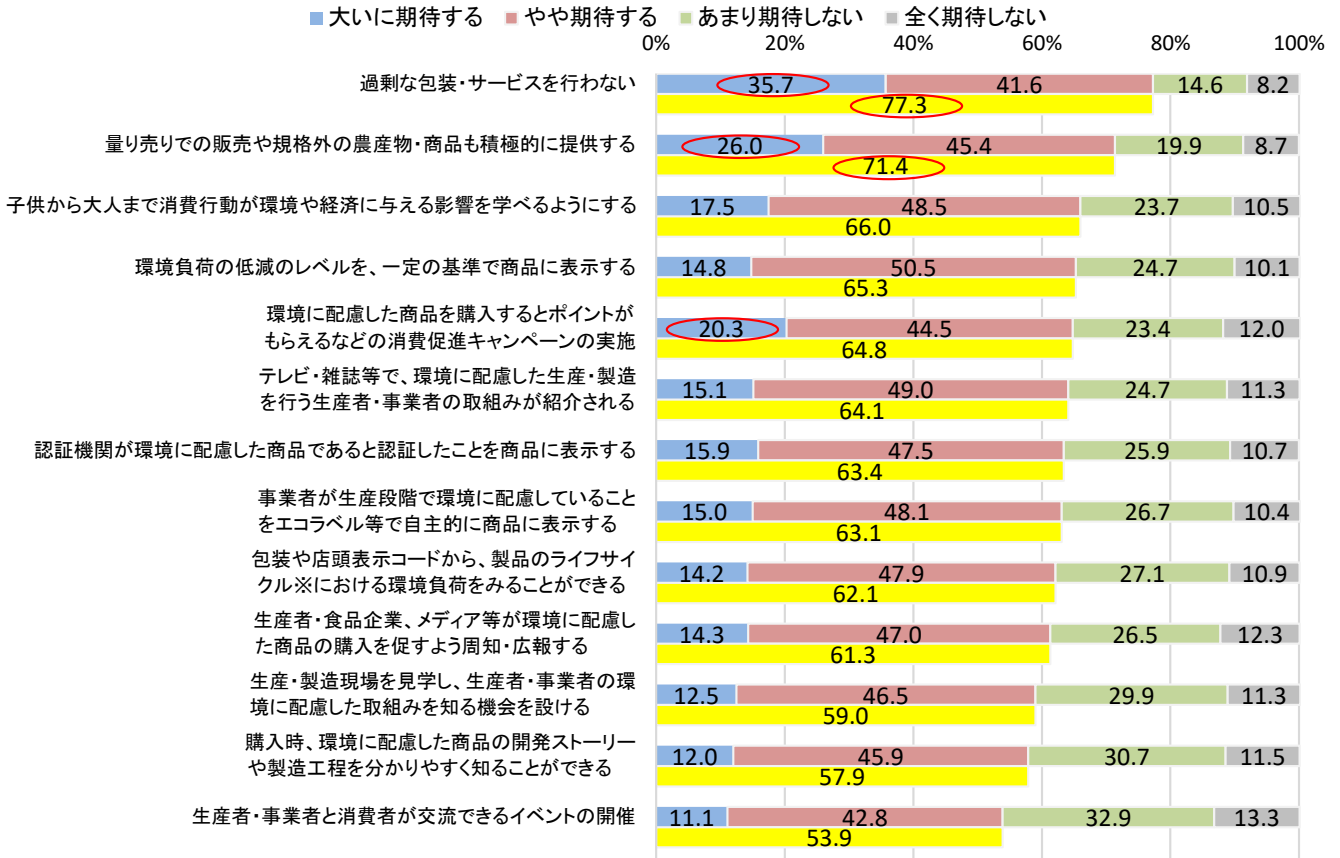


図15 環境に配慮した農産物・食品の購入促進のため、生産者や食品企業等に期待する取組み

- ・ 環境に配慮した農産物・食品の購入促進のために、消費者が生産者や食品企業等に期待する取組みについて聞いたところ、「大いに期待する」「やや期待する」を合わせた割合は「過剰な包装・サービスを行わない」(77.3%)、「量り売りでの販売や規格外の農産物・商品も積極的に提供する」(71.4%)で7割を上回った。
- ・ 「大いに期待する」の割合は「過剰な包装・サービスを行わない」(35.7%)、「量り売りでの販売や規格外の農産物・商品も積極的に提供する」(26.0%)、「環境に配慮した商品を購入するとポイントがもらえるなどの消費促進キャンペーンの実施」(20.3%)の順で高くなった。



※「製品のライフサイクル」とは、その製品の生産段階(原料調達・生産)→流通段階→消費段階(使用・維持管理、廃棄・リサイクル)までの過程を指します。